

22J-am08

薬局薬剤師から医師への服薬情報提供書による処方提案とその効果

○金子 絵里奈¹, 木原 太郎¹, 小柳 香織¹, 林田 諭¹, 郡司 清志¹, 吉居 瞳¹,
鶴田 達也¹, 朝原 寛子¹, 川浪 望恵², 都築 加奈², 高山 浩太郎², 高木 淳一¹,
小林 大介², 川尻 雄大², 窪田 敏夫³, 島添 隆雄², 田中 泰三¹(¹福岡市薬剤師会, ²九
大院薬, ³第一薬大)

【目的】医療機関と薬局の連携ツールとして服薬情報提供書（トレーシングレポート、以下 TR）が活用されている。薬剤師は、薬剤適正使用の推進、服薬アドヒアランスの向上などを目的として TR を活用しているが、その内容や具体的な効果など十分に明らかではない。今回、TR を活用した処方提案および医師に採用された事例について分析し、医療連携における TR の有用性について検討を行った。

【方法】2017 年(1 年間)に、一般社団法人福岡市薬剤師会会員薬局から医療機関に提出された成人患者の TR のコピーを収集した。まず、TR に含まれる情報から 10 のカテゴリーに分類した。さらに、提出元の薬剤師から処方提案前後の実際の処方や患者の状態などを聞き取り、処方提案が処方内容や薬物治療に与えた影響を調査した。

【結果】41 薬局から 339 件の TR を収集した。処方提案が含まれる TR は 91 件(27%)、提案が採用された TR は 55 件であり、処方提案の採用率は 68%であった。処方提案された TR、採用された TR のうち、いずれも服薬状況についての情報提供が約 4 割を占めた。薬局薬剤師からの提案を基に処方に変更された後、患者の服薬率が上昇し、明らかな検査値改善が見られた事例もあった。

【考察】処方提案された TR の 4 割が服薬状況に関することであり、TR を活用した処方提案は服薬状況の改善に有効であると推察される。事例の分析により、TR を活用した薬学的な処方提案は、患者の薬物治療に貢献していることが示された。また、得た知見をもとに、既存の TR フォーマットを効率的に情報提供できるように改変した。この TR フォーマットの現状についても報告する予定である。